

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和4年11月30日(2022.11.30)

【公開番号】特開2022-115204(P2022-115204A)

【公開日】令和4年8月9日(2022.8.9)

【年通号数】公開公報(特許)2022-145

【出願番号】特願2021-11713(P2021-11713)

【国際特許分類】

A 63 F 7/02 (2006.01)

10

【F I】

A 63 F 7/02 320

【手続補正書】

【提出日】令和4年11月21日(2022.11.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技の進行を制御する遊技制御手段と、

演出を制御する演出制御手段と、

遊技者が操作可能な操作手段と、を備えた遊技機であって、

前記遊技制御手段は、

第1モードと、前記第1モードよりも遊技者にとって有利な第2モードとに制御可能であり、

始動条件の成立により判定情報を取得し、

前記判定情報に基づいて特別遊技を行うか否かの判定を実行可能であり、

前記判定の前に前記判定情報を事前判定することが可能であり、

前記演出制御手段は、

前記判定の結果に応じて遊技演出を実行可能であり、

前記遊技演出の実行中に前記操作手段を振動させる振動演出を実行可能であり、

前記振動演出には、

操作有効期間を発生させると共に操作促進表示を行い、前記操作促進表示中の前記操作手段の操作に応じて実行される第1振動演出と、

操作有効期間を発生させないと共に前記操作促進表示を伴わずに実行される第2振動演出と、があり、

前記第2振動演出には、

前記遊技演出の開始後の所定タイミングで実行される第1演出と、

前記第1演出とは異なるタイミングで実行される第2演出と、があり、

前記第1演出は、前記事前判定の結果に応じて実行され、

前記第1モードと前記第2モードとで、前記遊技演出の開始後の所定タイミングにおける前記第1演出の実行され易さが異なることを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

40

50

【 0 0 0 6 】

上記の目的を達成する本発明は、次のような遊技機として実現される。この遊技機（例えば、遊技機 1）は、遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、主制御基板 110）と、演出を制御する演出制御手段（例えば、演出制御基板 130）と、遊技者が操作可能な操作手段（例えば、演出ボタン 17、演出レバー 24）と、を備えた遊技機であつて、前記遊技制御手段（例えば、主制御基板 110）は、第1モード（例えば、通常遊技状態など）と、前記第1モードよりも遊技者にとって有利な第2モード（例えば、特定遊技状態など）とに制御可能であり、始動条件の成立により判定情報（例えば、特図判定情報）を取得し、前記判定情報に基づいて特別遊技（例えば、大当たり遊技など）を行うか否かの判定を実行可能であり、前記判定の前に前記判定情報を事前判定することが可能であり、前記演出制御手段は、前記判定の結果に応じて遊技演出（例えば、変動演出）を実行可能であり、前記遊技演出の実行中に前記操作手段を振動させる振動演出（例えば、先読み振動演出、セリフ予告演出、カットイン演出、決め成功演出、図柄揃い時の強振動、C図柄揃い時の強振動等）を実行可能であり、前記振動演出には、操作有効期間を発生させると共に操作促進表示を行い、前記操作促進表示中の前記操作手段の操作に応じて実行される第1振動演出（例えば、セリフ予告演出、カットイン演出、決め成功演出等）と、操作有効期間を発生させないと共に前記操作促進表示を伴わずに実行される第2振動演出（例えば、先読み振動演出、図柄揃い時の強振動、C図柄揃い時の強振動等）と、があり、前記第2振動演出には、前記遊技演出の開始後の所定タイミングで実行される第1演出（例えば、先読み振動演出）と、前記第1演出とは異なるタイミングで実行される第2演出（例えば、図柄揃い時の強振動、C図柄揃い時の強振動等）と、があり、前記第1演出は、前記事前判定の結果に応じて実行され、前記第1モードと前記第2モードとで、前記遊技演出の開始後の所定タイミングにおける前記第1演出の実行され易さが異なることを特徴とする遊技機である。

10

20

30

40

50